



声を聴きつなぐ会

【聴き合う、つながる、守り合う】

わたし達は性暴力の専門家でも研究者でもありません。
しかし、性暴力の当事者として経験したこと、
加害教員に向き合うことでわかったこと、
これまでに会った人達から学んだことなど多くのことを積み上げてきました。
性暴力を防ぐ上で、こうした積み上げはとても大事であり、
人権の擁護へ人々を動かす力となります。
当事者の声を伝えることから学校の性暴力は防止することができる。
これがわたし達の結論であり、皆さんに提起したいことです。

子どもが苦しめない 学校と社会のために

声を聴きつなぐ会は教師から性暴力を受けた経験を持つ人達、
保護者、当時の教職員、支援者によって構成されています。
2018年に子どもたちが声を上げることで活動が始まりました。
子どもが虐待や性暴力をはじめとするさまざまな人権侵害から
守られる社会を作るためにさまざまな活動しています。

お問い合わせ先:

✉ koe.kiku.tsunagu@gmail.com



活動内容の詳細は
ホームページにて

🔍 声を聴きつなぐ会



2024年6月

自己紹介

代表 大原 康彦

わたしは子どもたちが性被害を受けた学校で教員でした。
しかし、わたしは性暴力を防ぐことはできませんでした。
今、声を上げた子どもたちと共に、この問題の当事者として
学校での性暴力を防ぐことに取り組んでいます。

副代表 平野 利枝

小学校高学年の時に担任教師から性暴力を受けた被害当事者。
被害事実とその後の影響をお伝えすると共に、
予防と救済の重要性を訴えています。
二度と被害が起こらない社会を目指して活動しています。

声を聴きつなく会の歩み

- 三十余年前 子どもたちが担任から性暴力を受ける。
- 2018年 教育委員会に告発するが、加害教員が事実を認めないまま退職。
- 2021年 面会を繰り返し、加害教員が事実を認め全面的に謝罪をする。
教育委員会に性暴力防止の取り組みを中心とした要望書を提出。
- 2022年 教育委員会と性暴力防止の取り組みについての意見交流が始まる。
- 2023年 教育交流会を初めてした性暴力防止の研修会などを実施する。

主な取り組み

<教育委員会・行政・議員などとの連絡会・ヒアリング>

わたし達は性暴力の防止のための要望書を県と市に提出しました。その後も性暴力防止の提案をおこなってきました。また教育委員会の連絡会を繰り返し、『教職員による性暴力の防止マニュアル』に繋げることができました。現在は教育委員会と協力して詳細な記録を作成して防止に役立てたいと取り組んでいます。また、日本版DBSのヒアリングなどにも参加しています。

<教育交流会・研修会・学習会>

わたし達は学校での性暴力や虐待の事実や性加害の特性、防止の取り組みを知ってもらうために教育交流会を実施しています。そこでは当事者だけでなく、子どもたちへの暴力防止に取り組むNPO、虐待やDVを専門とする弁護士、児童精神科医などを講師としてお招きしています。また学校や男女共同参画社会を目指して活動する団体、人権団体、性暴力に取り組んでいる人達などのお招きを受け、講師として活動をしています。

<メディアを通しての発信>

学校での性暴力のニュースがほとんど毎日のように流れています。こうした情報に心を挫かれてしまう人もいることでしょう。わたし達は当事者としての声を発信することで、性暴力と向き合ってきた経験や何よりも『取り組むことで学校での性暴力は無くすることができる』ことを知ってもらいたいと活動しています。個人情報に配慮しながら、これまでにさまざまな新聞や人権情報誌、テレビ、ネットニュースなどから声を上げてきました。

<つなぐ会とお話し会>

わたし達は学校から離れている子どもたちや高齢者の方などとお話をする会をおこなっています。いろいろことを話しながら工作をしています。問題を解決することではなく、受け入れあうこと、一緒に楽しい時間をつくるのが目的です。回数は少ないですが、わたし達にとっても大事な時間です。